

昭和元年一月廿日
田中集國司人言

上陸地_ニ於_テ諸機関、任務配置及其、相互關係、如之

た記

0348

二三 削除

四 鹿兒島上陸地、於此復員要項

(一) 日本船ニ封スル連絡

1. 舟楫ニ依リ速ニ支那海軍及支那派遣軍ヨリ連絡者ヲ派遣ス

2. 米軍 訊問 (訊問書ヲ記入スル程度)

3. 歸郷方面別人負表 經理關係書類ヲ授受

(二) 舟楫ニ依リ上陸

午前中に入港スル船舶—— 概テ即刻

午後入港セル船舶—— 翌朝ヨリ上陸開始

上陸順序ハ概テ左記ニ依リ

1. 遺骨 灰俵 (安置所ヲ願フ)

2. 特ニ急ヲ要スル者

3. 書籍 調定ニ據ルモノ、會計帳簿 及各中隊令任官

4. 職務整理者及留守業務部派遣要員 先登者等

上一般者

以上ノ順序ニ依リ概テ四〇名宛舟楫ヲ乗上陸ス

(三) 埠頭ニ於テ上陸院

1. 検疫 (複診・同診) 及消毒

2. 所持品検査

3. 遺骨、遺留品、移入院患者、刑者ノ手配
4. 糧秣、衛生材料等ノ返納
5. 部隊毎休止地ニ分進
- (四) 中隊分任官ニ對シ金錢給付及輕患者ノ收容
- (五) 縣廳別館ハ埠頭ヨリ行軍ニ分向シ於テ行ハ關係者ノミ
- (六) 上陸地支局出張所ニ於ケル處理ハ關係者ノミ
- (七) 自來水、糞尿及業務指導
- (八) 休止地(各國民學校校舎トシテ行軍約二分乃至四分)ニ於ケル處理
- ノ各人ニ對シ金錢支給
- ノ糧食通帳等保護預メ
- ノ給食及携帶糧食ノ交付
- ノ復員式
- ノ鐵道乘車券ノ交付
- ノ方面別ニ分乘車券ノ分送
- (九) 歸郷輸送(復員列車發車時刻)
- ノ上陸當日 十八時 品川行
- ノ上陸翌日 十九時 大塚行
- ノ各軍兵團支隊殘務整理者等ノ關係書類ヲ全部携行ト連リ復員
- 本部(二日市町)ニ送附ス

0350

以參考事項

1. 米軍ノ注意

部隊ヲ離レ單獨行動ニ爲スルハ射殺ス

2. 陣頭ヲ喪フ者及荷物ハ自給貨車ニ依リ輸送ス

3. 船内ニ於テ「コレ」喪フ者殺スル場合ハ上陸ニハコレヲ依セ保ツ廻航セザル

之他世保上陸地ニ於ケル参考(亦付人北支方面軍ヲ内地ニ遣セザル)

参考ノ併發ニ基テ参考スル

1. 船内及検査並ニ宿舎等

上陸直ニ檢受(著裝被服ノ情狀檢身)ニ物以検査(我軍制品携行ノ

禁止トス)終リテ約七折ノ進行(將發行客公用行李及米行困難

ル人貨物自動車ニ輸送ス)後針尾村旧海兵團宿舎ニ收容

改道輸送ニ依リ帰郷セシム

運送ハ概テ順調ニ配車ヲ實施セザリ

上陸後輸送難シト至ル内ノ業務ハ米軍ノ監視ノ下ニ大部ヲ上陸地支局ニ於

テ一部全額給與ハ復員出張計ニ於テ爲スル

復員ニ關スル諸書類ハ復員出張計ニ於テ管理點檢、上陸地支局ニ送付スル

上陸地ニ於ケル復員部、降ノ復員要領

上陸時ニ於ケル連絡

上陸船ニ對スル連絡ハ舟艇ニ依リ連絡ニ大抵ノ音ヲ派遣セザル

0351

人上陸地支局等

部長等々其代理者(全船縦横連絡)船舶抵、給與抵、般道抵、
便員抵

2. 博多連絡船等

給與抵、衣糧抵、人員抵
ハ右ノ單元同行トシテ其要ニ應ジシニ級音トシテ迎フコトナリ

二) 検査

検査臣官入港船に乗込ニ定メ施ス并要ニ應ジ陸便船種等トシテ行
ハル元稟船歩投ニ於テ上陸置良好トシ且之ヲ證明シ合ハル場合ハ同診
検査ニシテ同單元行ワレ

三) 接岸上陸

以下帰郷ニ至ル迄、該導ハ以テ業務部長主任者(案内係ル)

四) 米軍検問

荷物ハ各個人ノ於テ全部ヲ携行シ檢同ヲ受ケ検査計ハ上陸地點
ヲ約一〇米ニ在リ検査ハ毎日九時ト十時ト迄、間行ハル

六) 要入院患者、引継、隊属軍需品、引揚等
六) 金錢給與、諸診費、交付及宿泊等

人宿營上ノ注意

2. 毛布、被服、燃料、運兵、貸與、又ハ支給
3. 食事分配

no. 3

0352

4 金錢給與

5 各種書類照会受取

6 支局長挨拶、總司令官挨拶、總務課側、於、取、復員式、行、

7 復員證、書、(從業證、明書)、交付、(但、未、持、者、ミ)

8 携帶糧秣、外食券、交付

9 無賃乗車券、交付、(本、乗車券、の、持、者、ミ、乗車、不、能、行、付、活、意、を、要、ス)

尚、上陸地、宿舎、ハ、國民學校、校舎、に、合、宿、ス、(一個、所、約、五、〇、〇、ミ、に、テ、入、宿、收、容、

ク、ハ、一、〇、〇、〇、〇、ナリ)

乗車券發

参考事項

1 上陸後、宿舎、ミ、ハ、混雜、ス、以、テ、現在、ハ、夜、當、目、船、内、ニ、泊、ル、此、間、於、テ

一切、處理、ヲ、完了、シ、翌、日、上陸、直、ニ、歸、郷、ス、ル、如、ク、指、導、サ、レ、タ、ル、

2 乗車地、及、列車、運、行、收、入、

3 九州、内、ミ、

上陸地、ミ、約、一、群、博、多、駅、ト、一、般、混、雜、ス、以、テ、復、雜、種、ミ、ナ、リ

4 本、土、方、面、ミ、

上陸地、ミ、約、一、〇、〇、米、博、多、港、駅、ト、ミ、毎、日、十、三、時、十、八、時、ノ、二、回

大、阪、行、ト、ミ、新、要、ミ、應、ミ、更、ニ、臨時、列車、ヲ、増、發、ス、尚、全、般、ノ、發、道、

輸、送、ハ、石、炭、缺、乏、ヲ、殆、ト、極、限、的、縮、小、セ、タ、リ

支那、海、電、第、六、七、號、要、旨

一 従来、軍保有糧秣の全量内務省へ継承移管せしむる爲西部軍人其他ノ部隊
ニ保無き無きニテ將來之ヲ取得ハ現在極メテ困難視セラル各上陸地支局
ハ復員部隊、上陸日數滞留内給養ニ差向支費程度ノ糧秣ヲ保有スリ
尙帰郷用糧食ハ各支局ニ於テ帰郷地ニ應ジ振、飯、乾、麵、麩、米、外食
券ト振用支給スル

復員本部計要、糧秣ハ一般取給、外西部軍並其他ノ部隊及朝鮮軍
諸務整理等ヲ各別ノ配屬ニ依リ漸ク去ル迄スル迄、近ク諸務整理
ノ激増ヲ予想セルハ折復員部隊返納糧秣ニ期待、外上陸地状況ナリ之ヲ
爲粟船地ニ於テ積込糧秣ハ各人携行同テ陸上ニ移メテ多量積載セシメ
之ニ復員本部宛、送達シ輸送指揮官ニ交付携行セシムル度

又支方面、帰還部隊ハ概テ復員規定計持被服ヲ着装シ良好ナル比島
方面諸部隊ハ停屬被服ヲ着装スルニシテ一部上陸時返納ノ命令セラル
被服ニテ上陸スルモノアリ真、同様ニ堪ヘ、而シテ支局、準備被服又種々通過
過ミアリテ整備不如意ノ現状ナシハ派遣軍以外帰還部隊ノ所持品ノ
一部計上支局方帰還部隊ニ支給スルニ必要アリト認メ目下研究ヤナリ
又業務用消費品ハ支局ヨリ交付ヲ受ケ且市井ヨリ調辦セルハ全ク各隊
要求ノ充足ニ得サハリ以テ將來、帰還部隊ニ任務整理計要品可携
行スル如ク指導ヲ望ム特ニ「トウ」ハ「ベニ」等不足スル

總参一電第一九五號

0354

復員本部より左記要請ありたるに付指導所慮あり度尚復員本部に宿營給養
衛生の不備及人員の不足等環境の克服在華將兵に留民の熱誠
協力あり

た記

ノ帰還者ニミテ本人又ハ其親友吏、不活意ニ依リ給與通報ニ通貨交換證
ヲ紛失又ハ焼却セラルル勢カラスミテ給與ニ困惑ミテ付活意ヲ喚起セリ度
ノ帰還部隊ノ経費関係者特ニ其親友吏ニミテ責任觀念の缺陥ニ業務定部
ノ熱意ナキミテ、山々於テ上官ニ於テ指導アリ度

ニ復員本部主令長保有量種メテ人員弱アリ

國內食糧事情ニ鑑ミ帰還輸送ニ多量ノ還送ニ熱望ス

三電第九四号

復員本部要員等ノ多儀ヲ以テスル先發ハ聯合國側ヨリ認可セラルサ
ルニ付是等居留民に世話傷又ハ先頭帰還部隊員トミテ先發セラルル如
ク處置アリ度

文復總電第一五號

陸地支局ニ直接先頭ニ交那訓進軍復員規定未傳達ニ爲誤リテ結果
断隔セラルル理由トニ部隊長中復員本部に先頭セラルル者先頭スルニ無断
復員スル者等アリテ注意アリ度

文復總電第九五號

役員規定第七條第九條第十條ニ據ルに派遣要員中ハ一節ノ熱意極
メテ之ヲ或ハ經歷・健康其他・關係上適任ト認メ難ク甚シキハ補ハルベ
ク設クテ歸郷ヲ願出ルモノモアリ誠ニ遺憾ニ堪ヘズ自今 要員ノ選定
ニハ特別留意セラルル如ク指導アリ度尚既ニ派遣セラルル者ニ就テ其
重責ヲ自覺セラルト共ニ思フ然因テ未だ遣送ノ戦友ニ致サシメ家族ニ不遇
等過度ニ慮ルハトテ一急職責完遂ニ遣送セラルル如ク懇切ニ指導
シテ到底其任ニ堪ヘト認ムニ於テ止ム得久 離任級郷セシメ要員
代人ノ派遣ヲ依頼致スベキトアルハ此語承アリ度

二 支復總電第 弐

一 一般被還邦人ハ引揚救護局(局長ハ各府縣知事兼任)ニ於テ宿營
給養ハ輸送等世話ヲ為スル 指下願ニ事務計テハ朝鮮・台灣・沖
繩諸人等ハ火々別ニ有志成ル世話掛ヲ請フセラル

二 陸軍

米軍ノ検査等概テ軍隊ノ要領ニ同シ

三 東車

水及九州ニ輸送スル之無償東車券(引揚證書)ヲ交付シ直ニ其
行動ヲ許可セラル

(東車券ハ旅費ハ方面割ニ應ジズ規定セラル)

三 總參三電第九四二號

0356

在留邦人内地土陵後、處置に關する疑問、向アリニ付中支の照会中、
處置の事、回答アリ付承知アリ度

一、歸還輸送先決定之に關するハ土陵後直ニ其處を以て府縣別に輸送ス
合ハ局長調製ス

二、内地土陵後、措置に當り有計揚掩護局及戰災掩護令並に外務省
并實在外同胞掩護会等、於て處理之、準備事項トシテ東艦
青島等三部ヲ據行セシメ度

三、支領總電第七九號
輸送に於其他の關係、主として分離の取置を被立部隊内一部會員
及單獨者ニ對シテ必ス除隊召集解除者連名等三部及戰時名簿ヲ携
行セムル如ク速クニ徹底セシメ度（復員規程第十五條第四項參照）

十五、支領總電第七九號

- 一、部隊一部ノ人員ニミテ戰時名簿ヲ携行セムルハ依然然トシテ嚴格指導アリ度
- 二、八月二日附、進級ヲ余儀ナク處置スル部隊（特ニ軍隊又ハモ）アルハ付指導アリ度
- 三、除隊召集解除者連名簿三地方世該部、受取ヲ容易ナラシムル為適宜徵集ナリ
（任官等）補フ設テ該處事務取リ込メセシメ度
- 四、内地部隊ハ一月一日附ヲ以テ全部復員之日以後、四週迄は其者ハ關係が濃厚ナリ
ノヨリ以テ除隊（召集解除）トシテハ以テ置送其者連名簿ハ三部ヲ携行スル
ニ提當シ且該名簿ハ除隊召集解除者連名簿代用ナラシムルハ可キ

捕「徴集(任夜)年役種」各種等類。收容年月日欄。收容(降陽)日
解降)年月日」三欄高々如く指導ありて

五復員時粗漏ミテ進級通知従年計帳預金通帳預り證事務
人負解散後ニ於テ依頼ミテ部隊マシ高指導見同復員準備ノ利
悔ミル現況ニ鑑ミ一層指導相煩度

十六支復總電第一四三第

戰時名簿ヲ移行シタルモノ依然跡ヲ絶タサルニ付必々全員移行シタル如ク徹底セ
ラレ度

並ニ部隊ミテ兵籍焼失ミル現況ニ於テハ戰時名簿ハ絶対ニ必要ニテ此部隊ノ解
散セル後、調製ハ種々困難ナルニ付承知セラルル尚入隊者若クハ部隊ノ一
人ノミテ戰時名簿ハ目下未だニ於テ保存ミルハ皆等申シタル者ナリ又信
難ク從テ重復スルハ差支ハテニ付帰還者ハ必ズ之ヲ移行セシメラレ度
同係書類ヲ移行シタルヲ務務整理者アリ苟クモ務務整理者ミテ復員南局
書類ヲ移行セサルカ如キハ皆無サシムル様嚴ニ指導セヨ度

十七支復總電第一九八第

一九州ニ於ケル兵器解体及彈藥處理作業ハ資源回收上國家トシテ重大
事項トシテ拘テス技術該ニ習シ、自達スル位置ノ状態ニ聯合軍ヲ執
督役了ル、同係官廳ニ附却ミル現況ナリ

四在外部隊特ニ支那台灣佛印將兵、内地歸還後取替テ就職トシテ

0358

メテ有利ト思考ス關係職司ニ折衝シ努力シ復員軍人ノ活用ニ本作業ノ
 遂行ヲ期スルヲ準備中ナリ待過商賣休養等モ十分配慮セシ且本作業
 ト併行シテ南支那漢語、工不建築、鑛山開採其他ノ事業促進シ此ノ實
 事業開始ニ當リ、經常ノ困難性ヲ克服スルハト共ニ本作業終了後、
 可成無事ニシムル如ク配慮スナリ
 四爲シ得ルハ急務關係部隊ヲ優先的ニ内地ニ輸送シ速ニ復員シテ本作業能
 率セシムルト共ニ一般部隊員ニ大量ニ轉送スル如ク格別ノ配慮賜ハ度
 佐官以下ノ就職ヲ歡迎シ將來情ニ不安ナキモノト判斷ス
 十八 總参一覽第九一號

一 内地陸軍病院ハ十二月一日以降軍事保護院療養所トナリ厚生省管下ノ
 醫務管理現狀之ヲ續報ス
 二 還送患者ハ總計五陸ノ日ヲ以テ輕重除隊召募解隊スルモノニ付還送數次
 三 五九場合ハ各一部毎ニ南支圖書類ヲ復員本部ニ提出スルハナリス
 三 西部復員院關於此患者收容系統等友ノ如シ

左記

港 灣 名	收容療養所	收容人員	備 考
仙崎下関所司港	小倉	三〇〇 二〇〇	要
	福岡第一療養所	三〇〇	
	福岡第二療養所	二〇〇	

0359

九支復總電第ニの報
 級還將々、新格の目見ルニ内地上陸第一歩ト共ニ多年戦野ニ参ハシ美徳
 ヲ忘却セズ或ハ排他利己ニ奔リ或ハ物慾ニ情スルモノ少カラズトテ軍需而シテ
 獨斷獨行其甚クハ強盜ハ、輕代リ見ルハ状況ニテリ離テ國內情勢ウニ
 思ハズルハ、放訓違軍將々ニ期待スル所頗ル大ナル拘ラズ事能スルヲ

博多港	佐世保港	鹿児島港	府港	備考
佐賀療養計 大分療養計 唐瀬療養計 豊後療養計 豊前療養計	大村療養計	鹿児島療養計 都立療養計 霧島療養計 能年第一療養計 能年第二療養計	別府療養計 久留米療養計 東肥療養計	一總收容力ハ約一六、〇〇〇名ナルモ現在收容力ハ約一〇、〇〇〇ナリ
五〇〇 二〇〇 五〇〇 一五〇 一五〇		一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇	二〇〇 二〇〇 二〇〇	
	海軍指收ノ多收容不能ナリ			

0360

如ク六皇國・前途ニ對シ暗膽タル感ヘテ得ル今後帰還將々ヨシテ
尙一層時代、郷土ヲ深刻ニ把握セシメ勳ヲモトメ経歴、戦功等段々
ニ加シトスル積ヲ一擲シテ今ヲ白代ニ還元シ且軍人ニ對スル世評ヨリ
スルコトナク特ニ上陸第一歩ヲ勸告シ意氣ト共榮道義ニ燃亮國家再建
戦士タリ得ル如ク格段ノ指導ヲ加ヘラシムル希人急ニ止マズ

(了)

0361